

多職種連携演習 3

【単位数：1.5単位，授業20コマ（内5コマ）】

1 科目責任者

早稲田勝久 教授（医学教育センター）

2 教育目標

（1）ねらい（I-1-b, I-2-b, I-11-b, I-12-b, I-13-b, I-14-b, II-1-b, II-2-b, II-3-b）

- ① コンピテンスである「プロフェッショナリズム」「コミュニケーション」を修得するために，他学部学生との対話・協働を通じて，医療職の役割を多角的に理解する。
- ② 患者中心の医療を実現するために，保健・医療・福祉に関わる多職種の専門性と役割を理解し，相互尊重と効果的なコミュニケーションに基づいて協働できる能力と態度を涵養する。

（2）学修目標

全体目標

- ① 各職種の役割を理解する。
- ② 他学部学生との協働を体験し，自己のコミュニケーションの課題を見出すことができる。
- ③ 医療チームにおける多職種のコミュニケーションの重要性を説明できる。

1学年次

- ・ 医師として必要な多様な価値観を持つことができる。良いチームとは何か，自己と他者の理解に対する姿勢，コミュニケーションの重要性を述べることができる。

2学年次

- ・ 医療は多職種協働であることを理解し，医療チームを構成する上での課題を抽出出来る。

3学年次

- ・ 患者・家族の視点に立ち，それぞれの職種の立場からチームとして課題解決に取り組むことができる。

4学年次

- ・ 臨床場面において，患者・家族中心の多職種協働を実践できる。

3 成績の判定・評価

（1）総合成績の対象と算出法

| | 成績対象 | 割合 | 方法・コメント |
|-------|------|-----|---|
| レポート | ○ | 40% | 事前課題：15点 事後課題：25点 |
| アンケート | ○ | 10% | 事前アンケート・事後アンケートへの回答（各5点） |
| 態度 | ○ | 50% | 演習に対する参加度を評価する（グループ討議に参加しない，居眠り，ゲームや内職は減点の対象とする）。減点は最大20点とする。 |

出席：演習の単位を修得するためには，欠席をしてはならない。

（2）合格基準

評価対象の合計が60%以上（又は60点以上）で合格とする。

ただし，本科目は1学年次から4学年次に開講される多職種連携演習1～4全ての評価をもとに「多職種連携演習」として4学年次に単位認定をする（各学年での単位認定は行わないが，各学年で合格基準を満たすこと）。

3学年次では，5コマ開講する。

(3) 再試験・再評価の方法

再評価は教員と面接の上、補習又は課題を課す。

(4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

レポートに記載された内容について、理解が不十分と判断された場合は個々に理解度の確認を行う。

4 教科書

| 書名 | 著者名 | 出版社 | 教科書として指定する理由 |
|---------|-----|-----|--------------|
| 指定教科書なし | | | |

5 参考図書

| 書名 | 著者名 | 出版社 | 参考図書とする理由 |
|------------------------|-------------------------|-----------------------|--|
| 他者と働く | 宇田川元一 | News Picks Publishing | 「知識として正しいことと、実践の間には大きな隔たりがある」として分かりあえなさを基盤に他者とのかかわりの大切さを考察できる。 |
| 異文化コミュニケーションワークブック | 矢代京子 荒木晶子 他 | 三修社 | 自分自身の「異文化」に対する価値観を多様なセルフチェックで知ることができ、価値観を考えるきっかけとなる。 |
| 最強組織の法則—新時代のチームワークとは何か | ピーター・M・センゲ 守部信之 訳 | 徳間書店 | すばらしいチームとはどのような要素で成り立っているのか、また、様々なタイプのリーダーについて考察することができる。 |

6 準備学習（予習・復習）

他学部との合同セッションになるため、身だしなみ、言葉遣いなど、参加するための準備をしておく（1日あたり0.5時間）。

7 授業計画

(1) 講義の方法

小グループによる討論・発表や講師との質疑応答を行う。

(2) 講義の内容

看護学部学生・薬学部生と合同でグループワーク、発表を行う。